

まずはじめに、今回の記念展示を総括すると、「天地人」の一言で表せると思います。「天地人」は、今年のNHK大河ドラマのタイトルだから云うわけではありません。つまり、事を成し遂げるときに必要な「天の時」、「地の利」、「人の和」の3条件が、まさに揃っていたといふことです。

「天の時」は、言うに及ばず、岩手大学の創立60周年記念日に開幕できたということです。岩手大学の創立60周年記念日には既存の資料ばかりではなく、図書館に所蔵されている資料の発掘から作業を始めなければなりませんでした。そのお陰であつたという事実が象徴的で

巻頭言

岩手大学創立60周年記念事業
「人の和」で成し遂げた記念展示

岩手大学副学長・情報メディアセンター長
記念展示企画小委員会委員長 大塚尚寛

催す。多分、創立70周年では4人のお子さん達が集まるには年齢から考えて、"too late" だったと思います。一方、創立50周年の時点では、まだ、機が熟していませんでした。アザリアの4人の仲間の想いが時空を越えて、この時に集中したと思えてなりません。

「地の利」は、岩手大学の図書館ギャラリーで開催できたということです。今回の記念展示では、アザリアの仲間4人に等しく光を当てる基本としました。また、当時の高等農林の様子や学生生活も窺える内容になりました。また、河本義行が「緑石（ろくせき）」の俳句で大正14年4月に刊行した詩集『夢の破片』の初版本が図書館から見つかったことです。

そこで、記念展示を企画するにあたりを記した父親宛の葉書が今回見つかり、記念展示で紹介した人物です。2つ目は、河本義行が「緑石（ろくせき）」の俳句で大正14年4月に刊行した詩集『夢の破片』の初版本が図書館から見つかったことです。それも、本人が自ら寄贈したものです。まさに、図書館での開催までには、多くの方々から献

決まり、記念展示の準備が始まっています。まず、初代宮澤賢治研究センター代表の望月善次盛岡大学学長から、学外企画委員として、牛崎敏哉氏（宮沢賢治記念館副館長・学芸員）と宮澤明裕氏（宮澤賢治学会イーハトーブセンター）を紹介して頂きました。また、大学の60周年記念として開催した記念展示であることを記録に残すために、図録を作成するようにとの助言を頂きました。この2点が結果として、記念展示成功の鍵となつたと思います。また、開催までには、多くの方々から献身的なご協力を頂きました。

なかでも、最大の功労者は、宮澤賢治センター代表の岡田幸助です。ミュージアム館長です。今回の記念展示のそもそもの発端は、

宮澤賢治センター通信
(岩手大学内)

(題字/金森由利子)

第7号

発行人

〒020-8551
盛岡市上田四丁目3番5号
電話 019-621-6672
FAX 019-621-6493
宮澤賢治センター(岩手大学内)
発行責任者 岡田幸助

目次

- 巻頭言 副学長挨拶.....1
- 賢治センターの歩み 第3回総会の開催結果.....2
- 宮澤賢治センターの規約と 役員・事務局名簿.....3
- 定例研究会の概要.....4~7
- 「ミニ・茶話会」便り.....8
- 賢治と音楽の会便り.....8~9
- 宮澤賢治記念短歌会.....9
- 特集 岩手大学創立60周年記念展示 アザリアの咲くとき.....10~16
- 編集後記.....16

昨年10月に蘿崎市で開催された碑前祭に岡田館長が出席したことに始まります。蘿崎から戻られて間もなく、アザリアの仲間達をテーマとした記念展示を開催したいとの申し出がありました。その後、岡田先生と酒を飲んでいた席で、「私はこれが正しいと決めたら向こう見ずに突っ走るところがあるが、今回もまさにそうである。」とおっしゃいました。その時は、あまり暴走しないように手綱を締めなければと内心思っていましたが、いざ展示準備や図録作成段階になると、むしろ私が岡田先生を焚き付けていた所があつたように思います。それに嫌な顔ひとつせず対応してくれた岡田先生の人柄が、各方面から協力が得られた結果に結びついたと思います。

ところで、記念展示を企画する場合は通常、1年位前から準備に入るそうです。ましてや、図録を作成するには構想から2年必要だということを、後になつて知りました。今回の記念展示では、大学の方針が決まってから開催まで半年もありませんでしたし、図録の作成は正味3ヶ月で行いました。今から思えば、背筋が寒くなります。しかし、展示に向けて作業を進めていく段階で、障害は殆ど起



横沢京子氏

して用いられている事。

③ フロストの詩における「雪」のイメージについて。彼は本名のフロスト（霜）が暗示するように「雪」「氷」の描写に卓越しています。特に代表的なのが"Stopping by the Woods on a Snowy Evening"（雪の降る夕方に森の側に佇んで）です。（紙面の都合で原文省略）「詩人」は一年中で一番暗い夕方、馬ソリで荷物を運んでいる時、凍つた湖の側で森が美しい雪に埋れしていくのに魅了され、馬ソリの鈴の音とやわらかい風の音、雪の舞い散る音だけの中、「仕事」を忘れ、しばらく佇んでいる。特に注目するのは、"deep"に重きを置くためjlink（輪つなぎ押韻aaba, bbcb ccdg dddd）が音の効果を出します。それを理解して頂くために、native speakerによる同詩の朗読をテープレコードで聞いて頂きました。その他に "Fire and

Ice" と "Dust of Snow" を紹介しました。"Dust of Snow" は俳句的雰囲気を漂わせて います。原文を左に記します。

朝」に「雪」のイメージが良く表出しています。熱に浮かされた妹トシに「ふんわり」とした雪の一椀を与えようとする賢治の心情について私なりの感想を述べました。また童話『雪渡り』に見られる固く凍つた雪原を行く「四郎」と「かん子」の狐の「紺三郎」との交流が、子供と自然の交流として、幻想的に描

⑥賢治の星のイメージでは「銀河鉄道の夜」を例証するまでもなく彼が星に対し大変な関心を示していたのは周知の事実です。その代表的なのが「東岩手火山」と童話『双子の星』の中のリズミカルな「星めぐりの歌」で、フロストの場合と同様にオリオン座などが以下のよう

ることの一部を示しているのではないでしようか。この「きらきら」とした「透き通つたもの」（雪と星に共通するものは、あらゆる意味で人間（詩人）の靈魂を表わしているのでしよう。）この二人の詩人は創造主によつて造られた「雪」と「星」に対し、謙虚な見方をして、それへの讃美を詩に昇華させたのはまことに

された。また、火山には観測小屋が建設された。

これは、宮沢賢治が昭和7年（1932）に発表した童話「グスコーブドリの伝記」の話である。時代設定は21世紀か22世紀かわからぬが、クーボー大博士のエネルギー計画は、低炭素革命が時代のテーマとなつた今、近未来の構想として興味深



勉氏

サナトロジー（死生学）の教えるところによれば、愛する者の死——二人称の死は、深い喪失体験であり、悲嘆や絶望、鬱状態を味わう中から新しい生の模索が始まり、新たな価値観形成のきっかけともなるという。妹トシの死は賢治にとってまさにそうした深い喪失と悲嘆の体験であり、賢治の人生と芸術において一つのエポックとなる重要な体験であった。トシの死をめぐる一連の作品をそうしたサナトロジーの視点から把握してみたい。

今回取り上げた「臨終詩編」とは、「永訣の朝」「松の針」「無声慟哭」の三編の詩である。出版された『春と修羅』の末尾に、いざれも二重括弧によって

▽講師 岩手医科大学共通教
育センター 黒澤 勉氏
▽演題 「臨終詩編をめぐる
諸問題」
▽司会 中村 安宏
参考者 28名。

第29回 2月27日(金)

卷之三

形ではなく、回想でなく（この点、高村光太郎の「レモン哀歌」とは大きな違いがある）、詩の中で今、トシは生き、苦しんであるのである。

の 中で母は登場するが、父は出でこない。

第30回 3月18日(水)

▽会場 農学部6番教室
▽講師 元盛岡大学教授
横沢 京子氏
▽演題 「ロバート・フロスト
(Robert Frost, 1874~1963)
と宮沢賢治 (1896~1933) の
詩に見られる「雪」と「星」
のイメージ」

Outright 朗誦 民間大作とし
て旧ソ連の故フルシチヨフ首相
訪問。詩集に対しピューリツ
ア賞受章。スタイルベックと同
時代。)。

定例研究会の概要

形ではなく、回想でなく（この点、高村光太郎の「レモン哀歌」とは大きな違いがある）、詩の中で今、トシは生き、苦しんで

の中で母は登場するが、父は出でこない。

△司会 中村 安宏
参会者 23名。



1周年記念であらえびす館に集まつた方々

でした。さらに新しい趣向で、映像入りの音を楽しもうとDV Dソフトから希望を取りました。賢治が聴いたという「ツアーチップベルリンフィル演奏の田園交響曲」に決まり、「賢治生い立ちの映像」にのせて流れこの曲を聴きました。賢治がいかに自然を愛し、自然との調和の中で人を愛したのか、その思い半ばで逝ってしまった彼を思うとき、美しい自然の情景が心に染み渡り込み込み、涙を止めることができませんでした。

(小野伴忠記)

当初、私にとつての短歌は古

宮澤賢治記念短歌会報告

卷之三

すこと9回で、音の余韻を噛みしめながら聴くコンサートを、楽しんだのでした。

版レコードのCD化されたものを一気に通して聴きました。賢治が野山を闊歩し、詩作にふけり、宗教活動に奔走し、合間に物語を書いた若々しい生命の躍動感に触れることができたのでした。さらに新しい趣向で、映像入りの音を楽しもうとDV Dソフトから希望を取りました。賢治が聴いたという「ブフィツアーピアノ」指揮ベルリンフィル演奏の田園交響曲に決まり、「賢治生い立ちの映像」にのせて流れこの曲を聴きました。賢治がいかに自然を愛し、自然との調和の中で人を愛したのか、その思い半ばで逝ってしまった彼を思うとき、美しい自然の情景が心に染み渡り込み込み、涙を止めることができませんでした。

半を経た今、他の文芸活動をされてる方々や、学生、一般市民へと広がりを見せていました。賢治の短歌についても、先生から十五分程度のミニ講義を受けながら、各自が持ち寄った自作短歌を合評鑑賞すると言う、アツトホームな雰囲気の中での月一度の会合です。思えばこの六月の短歌会で丁度三年を経過。三十四回目となりました。

そこで、今回は三年前の七月、会員数も少なかつた頃の、第一回短歌会の時の作品を、鑑賞眼もいまだ未熟な私の選出で、紹介してみたいと思います。当時参加されたメンバーの方々も三年前の歌を懐かしく忍んでください。

典型的な文語を駆使した写実主義的な歌と言うイメージで、どこか遠いものとして受け取めていました。しかし啄木の短歌を学び、『一握の砂』『悲しき玩具』などに見られるような感傷的ではあるけれど、誰もが共感出来る解りやすい歌に、また、一世を風靡した俵万智の『サラダ記念日』の口語短歌の登場でグッと身近なものとして親しめるようになりました。勿論、歌作りにはいつも四苦八苦なのですが、それでも三十一文字と言う定型の中に自分の思いがピツタリと込められた時は嬉しいものです。しかしこう言うことはめったにありませんが、ただ主宰の望月先生と共に、仲間と短歌のことなど語り合うのも楽しく、これからも歌作りに励んで行きたいと思っています。

短歌会報告

又 何時もスタッフのメンバーは、参加する皆さんに喜んで頂ける様にとの思いで取り組んでいます。

要な時期であり、この創作活動で現在の賢治の評価があるとの話に大いに興味を持ちました。父政次郎氏は「渋柿が熟した」との話が有る様に、この期間に大きく境涯を開き作品に反映したことは間違ひ無いと思いまし
た。

◎ ウィリアム・モ里斯は英國19世紀の工芸デザイナーであり賢治は20世紀の人。しかし賢治の「農民芸術概論綱要」にある「芸術をもてあの灰色の労働を燃せ」は、モリスの「Art is man's expression of his joy in labor」の継承と言う。モリスのガーデニングと賢治の花壇。そこにモリスの賢治への影響性を語る。それは伊藤与蔵さんと言う賢治さんから羅須地人協会時代に教えを受けた方から、菊池正さんが話をきき、聞き語りをまとめた「賢治聞書」にモリスのことが載つていた。当時芥川龍之介等にも大きく影響を与えたモリスの芸術論を自身の言葉で語る賢治さんはともかく関心の広さと理解力の素晴らしさの証明と思えた。

「便」話茶念・一話茶一

定例会終了後茶話会が何時も行われています。茶話会では定例会には出ない様な話題が次々出て毎回楽しい一時になります。

投げかけられた思いでした。
又、「……けんじや」に対し
て、花巻では「……けろじや」
となるがこれは目下の人に対する
言葉使いであり、盛岡では
「……けで」は女性の言葉で、
「……けろ」は男性の言葉と思

相談をし、博士から「小生の宿年
年の希望が実現しかかつたのを喜びます」と関博士自身の土壤改良における自説の実現化になることを喜ぶ返事を頂き賢治は碎石工場の仕事を始めた。又、報酬として給料をもらつたので

で現在の賢治の評価があるとの話に大いに興味を持ちました。賢治は「苦に透入する」といい、父政次郎氏は「洪柿が熟した」との話が有る様に、この期間に大きく境涯を開き作品に反映したこととは間違ひ無いと思いまし

◎ 賢治の妹トシの死をめぐつて専門的な見地「サナトロジー」（死生学）から賢治の臨終詩編「永訣の朝」「松の針」「無声慟哭」を読むという興味深い考察がありました。特に、「助死者」と言う日頃聞き慣れない言葉を聞き、妹の臨終の席にいた賢治の思いをより強く読むことの大切さを教えられました。我々はこれらの詩をどうしても「第三者」として読み、賢治の悲しみを客観視して読みますが、この「助死者」という言葉は死に臨んだ妹に対して一緒に苦しめ、しかし妹に応えることの出来ない自分に対する悲しみや絶望を「第二者」として語っているという、この思いをもつと深く味わうことの大しさを教えられました。すなわち「第一者」とはここでは妹トシ。「第二者」とは賢治であり、そしてこの詩を読む我々「自分」と言うことではないでしょうか。「助

◎ アメリカの国民的詩人であるロバート・フロストの「雪」と「星」のイメージと、賢治のそれらのイメージの相似性と相違性の話がありました。

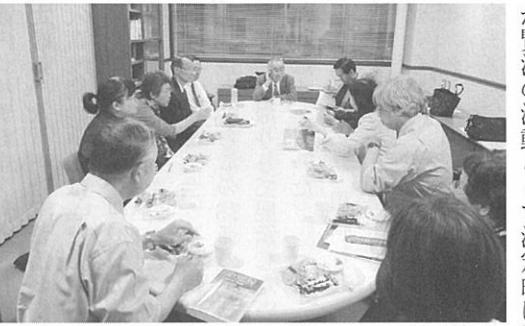
賢治は「永訣の朝」や「雪渡り」等で雪をよみ、フロストはアメリカ ニューアイングランドの雪を歌つた。双方の雪は温度と湿度の関係でサラサラの粉雪であり、双方とも「きらきら」又「光る」とものと捉えているが、フロストは比較的に現実的に描写されており、それを使って人生哲学を示しているが、賢治は「雪」も「星」も幻想的に捉えている違いがある。ともかく双方ともに国民的な作家で双方ともに親しまれる存在であるとのことでした。

○ 19世紀の工芸デザイナーであり賢治は20世紀の人。しかし賢治の「農民芸術概論綱要」にある「芸術をもてあの灰色の労働を燃せ」は、モリスの「Art is man's expression of his joy in labor」の継承と言う。モリスのガーデニングと賢治の花壇。そこにモリスの賢治への影響性を語る。それは伊藤与蔵さんと言う賢治さんから羅須地人協会時代に教えを受けた方から、菊池正さんが話をきき、聞き語りをまとめた「賢治聞書」にモリスのことが載っていた。当時芥川龍之介等にも大きく影響を与えたモリスの芸術論を自身の言葉で語る賢治さんはともかく関心の広さと理解力の素晴らしさの証明と思えた。

又、何時もスタッフのメンバーは、参加する皆さんに喜んでも頂ける様にとの思いで取り組んでいます。

た。あらえびす（野村胡堂）記念館（紫波町）に相談したところ、正に賢治が聴いたというレコードを発見しました。「あらえびす」は日本でのクラシック音楽普及に力を尽くした方で、「銭形平次捕物控」だけではなく一級の音楽評論家でもありました。相談のため記念館を訪ね、古い冷蔵庫のような蓄音機で音を聞いた時、世話役の姉歯、小野両人とも驚きの声をあげたのでした。「ええ・・・・? これがS.P.版の音! ! ?」少々古めかしい音ではあるが、朗々と伸びやかに響き渡る音、演奏の生き生きとした感じの音にただただ声をのんだのです。

「クレデンザに言葉は不要だ、針を落とせばクレデンザが語つてくれるのだから」と幾多の人々が賞賛した伝説の名機、ビクトローラ・クレデンザ（Victor Talking Machine（米国製）、



ごやかに談笑

賢治と音楽の会便り



オープニングセレモニー列席者歓迎会

各々が精一杯、自分の花を咲かせること、結局はそれが「みんなの本当の幸福」に繋がつてゆくことだと思います。少しでもこのアザリアの輪を広げるお手伝いができるということ、私はとつてこれ以上の喜びはありません。

を受け継いで、多くの人々に伝えることによって、いつかその夢を開花させることができるのではないでしようか。

若い人達にはぜひ、先輩たちが何を感じ何を考え、どのように生きたかを知り、己の進むべき道についてよく考えてもらいたいと思います。そして一人一人の花を咲かせて欲しいと思います。

アザリアの同人達が学校を去つてから九〇年。賢治たち四人が、御遺族を通じて初めてこの岩手大学に再会を果たしたといふことは、私のような者でさえ深い感慨を覚えます。ましてや御遺族はどのような想いでこの日を迎えたのでしょうか。校内を散歩すれば、各所にかつての面影が遺されており、私は若き日の彼らに会えたような気がします。この歴史的瞬間に私が立ち会えたことは奇跡というほかはありません。すべての関係者の皆様に深く感謝しています。

は交わした書簡やノート等が集合したなら、賢治・嘉内・小菅・河本は、「ようやく再会できたね」と、最上の喜びにきつと涙するにちがいない、夢の「アザリア」展でした。

見事に咲いたアザリアの花
杜陵小学校元校長 石田 紘子

「やまなしの木」と「ギンドロの木」の交流から、まるで結ばれていた糸がほぐれるかのように次々と交流が生まれ、とうとう「アザリアの花」が咲きました。それが、岩手大学創立60周年記念事業「アザリアの咲くとき」展でした。賢治・嘉内・小菅・河本が中心となり、若き情熱を燃焼させ、互いに競い合つて創作した文芸同人誌「アザリア」の第1号を発行した大正6年7月1日から、数えて92年の長すぎる時を経て、初めて母校が記念すべき企画展を開催したのでした。

「アザリア」のメンバー12人のうち、岩手県出身は賢治だけで、嘉内・小菅・河本も山梨・栃木・鳥取と離れていましたから、書簡での交流は続きましたが、再び会うことのできなかつた4人でした。青春の軌跡が眠る懐かしい盛岡の母校に、互いに

氏・山梨日々新聞の青沼記者、小菅家からは、ご長男充氏・アザレアのまち音楽祭」を開催しているさくら市教育委員会の方々、河本家からは、入院中の所一時帰宅の許可を得て参加したご次女道子氏、宮澤家からは、賢治記念館副館長の牛崎氏、そして岩手大学からは、藤

限りあるスペースに精選展示された会場のコーナーを廻りながら、なぜか緊張感が迫つてくるのは、理系の学業と文系の創作活動を両立させた濃密な学生生活だけではなく、書簡にもノートにも読書にも得業論文にも凛とした青春の気高さが輝いていたからなのだと感動的だと思いました。

先だって行われたオープニングセレモニーには、4人のご遺族がお揃いになり、積年の思いを一氣にお話くださいました。企画展の意義の大ささが会場に浸透する感動的な開会式でした。

前夜の歓迎会は、「アザリアアーチャー記念会」の方々・「賢治氏・お孫さんご夫妻・一葦崎アザリア記念会」の方々が嘉内に宛てた73通の手紙展

「アザリア」展は一人一人の胸の中にそれぞれの花を見事に咲かしてくれました。交流の糸は、今後も予想さえ追いつかない展開をきつと運んでくれることでしょう。最後になりましたが、開催の夢を形に変えてくださった皆様のご労苦に衷心より感謝とお礼申し上げます。

井学長・平山前学長・大塚副学長・賢治センターの岡田代表・前代表の望月盛大学長・岩手県から新・旧総合政策監の渡辺氏・小山氏とまだまだご紹介したい方々は、誰もが直接の大事な関係者でした。自己紹介では聞き漏らすまいと聞き入り、懇談ではお酒もお料理も忘れて語り合う、幸せな大歓迎会でした。

鳥取から来られた道子氏の「少しも遠いとは思いません。岩手に来ると父に会える気がします。」と語られた思い、保阪家に歌い継がれる家庭歌「勿忘草の歌」の賢治を暗示させる切ない詩と曲、そして美しい歌声、宮澤清六氏のお孫さん和樹氏の「盛岡高等農林時代と花農時代が賢治にとって一番幸せな時代でした」の言葉、充氏の「父は長生きしましたが、父について教えられることが多いです」と話された柔軟な笑顔は、今も印象深く残っています。

持つ限りない可能性を見た気がした。

見字誌

体が宇宙空間をさまよつてゐるもので、ふと足元を見ると美しい銀河が広がつていた。まるで「銀河鉄道の夜」の星の世界に投げ込まれたようだつた。そして目が覚める直前、「人間など宇宙から見れば塵のようになさい。でもこんな小さな存在が、宇宙のように大きな理想を夢見て生きることができるのだ」という感情がわいてきた。

しばらくして、原稿は無事に完成した。うまくはまともならなかつたが、私の中に確かな何かが残つた。賢治や嘉内たちがどうして今では想像できないような苦境の中でも心を折ることなく、前進できたのか少しだけ分かつた。そしてそこに、人間の持つ限りない可能性を見た気がした。

アレ究そ援氏者多ため

た。会場となつた岩手大学図書館ギャラリー1階には報道陣を含め40人ほどが参考集し、午前10時の開幕式に統いて、同大の前身盛岡高等農林学校で共に学び同人誌「アザリア」発行の中心となつた4人のご遺族の方々が藤井克己大学長らとテーブルをされました。参加されたのは賢治の令弟清六さんの孫に当たられる宮澤和樹さんをはじめ、保阪嘉内のご令息善三氏、庸夫氏ご兄弟、小菅健吉のご令息充氏ご夫妻、そして河本義行の次女でいらっしゃる御船道子氏で、これまで個々にご交流はあるものの4家族のご遺族がお揃いになられたのは今回が初めてとのこと、誠に記念すべき日となりました。

て、写場（スタジオ）はその佐々木氏の蔵を借りて使用していたそうです。開業は明治35年、昭和8年に廃業しています。

宮澤和樹さんや小菅充様ご夫婦、御船様、杉田さん、森三紗さん、宮城一男先生の奥様たちなど10人ほどで学食の2階で昼食をご一緒し、午後は農業教育資料館（旧本館）のなかを見学しました。展示物を観ていて、もう一つ発見がありました。高等農林実験室の授業風景の写真等、左後方に賢治が写つていて、ことで知られていますが、その写真の中中央後方、白衣の先生の

さいたま文学館の企画展「宮沢賢治と『アザリア』の友たち」の開催に向けて資料借用のお願いをしに、私が岩手大学農学部を初めて訪れたのは、もう七年ほども前のことになります。同展は、学校を去った後も友情の絆で結ばれながら揃って再会することのなかつた宮沢賢治・保阪嘉内・小菅健吉・河本義行（緑石）の四人の遺品や資料による

後ろに健吉氏が写っていると充
様ご夫妻から伺うことができた
のです。二人がクラスメートと
して共に勉学に勤しんだことの
証しとなる写真の存在は非常に
貴重です。

ご一緒に自啓寮跡や庭などを
散策し、その後は「啄木賢治青
春館」へ行ってコーヒーなどを
飲み、充実したひとときを過ご
しました。往き帰りとも杉田さ
んに同行させていただき、新幹
線の車中いろいろなご教示をい
ただいたことも幸甚なことでし
た。

時空をこえて咲き続ける「アザリア」

保阪嘉内・富沢賢治
アザリア記念会
正海澄惠

「アザリアの咲くとき」——このタイトルは、アザリア記念会のメンバー達と様々な話をやり

とを心から願う次第です。

「同窓会」のつもりで企画したものでした。その時、唯一心残りだつたのは、日程等の事情で四人の御遺族の皆様に一堂に会していただけなかつたことです。このたび及ばずながら企画立案等に関わらせていただいた岩手大学開学記念展示の中で、それが実現されたことは心からうれしく思います。

今回の展示の企画は、正海さんが「アザリアの咲くとき」というタイトルを考えてくれたところから始まりました。このタイトルのもと、関係者全員が心を一つにして事業に取り組んだことに、天上の四人も御遺族の方々も応えてくださつたような気がしてなりません。この奇跡的な出来事が、四人の抱いた夢や理想を虚飾なく受け止め、貴重な資料と共に次の世代に伝えていく活動が進む契機となること

岩手大学創立60周年記念展示
アーザンの歩み

治と学友たち～」に思つゝ」と

岩手大学研究交流部
情報メディア課長

佐藤
金壽

2年連続で大きな仕事に関わらせていただいた。昨年は「節子の井戸」の担当課として、そして今年（2009年）は「アザリアの咲くとき」の担当課としてである。少し説明をさせていただくと、「節子の井戸」は石川啄木の妻、旧姓堀合節子の生家の井戸が岩手大学のキャンパス内にあつたという由縁で、記念のために古井戸を復元しようとする事業であった。それは古井戸復元への執着心に加え、次々と企画が膨らんでいく。パネル展示、式典、講演会、演奏会、お茶会等々である。そのほとんどはミュージアム館長の〇先生からのアイデアであった。

我々はそれの実務を忠実にサポートしていくのが仕事である。指示が早いのでボヤボヤしてはいられない日が何日かあったような気がする。

何とかその仕事も成功裡に終わり「一安心」と思っていたところに、〇先生から「来年は賢治からホサカカナイへの手紙の

書から、浮かび上がる
成20年12月 そうこう
さんが岩手とによって
だね。」とのとなつた
「賢治から ような展示
なかつた。 られそうも
いた。 小心
から嘉内の
んがどれく
と心配して

一方であつて、
と思い、「…
を活かして
何冊か図書
にした。賢
しめた「嘉
び上がる。
没頭し嘉内
まで嘉内は
治からずれ
惹きつけて
違ひない。
よつて深く
書から、こ
浮かび上が

のようないメージがつってきた。しているうちに、平に嘉内の二男の庸夫大学を訪問されたこ、〇先生の「楽しみう言葉が現実のもとは言え頭の中は嘉内の手紙」でどのになるのかピンとこいづれ担当課は避けないと腹は決まつて者としては、「賢治手紙」だけでお客様らい集まるだろうかいたところ、大学の事業の一環として展

た。これでは駄目だ
地（図書館）の利」
、早速、図書館から
を借りて調べること
治に唯一の友と言わ
内」の人物像が浮か
賢治は宗教の世界に
を勧誘するが、最後
応じない。堅実な賢
二人は岩手山登山に
結びついていく。図
のようなイメージが
つってきた。

河本（こうもと） つて誰。後から「カワモト」であることが分かる。小菅（こすげ） つて誰。初歩的なことが、少しづつ理解できるようになつた。

きた。パネルも新たに加わった。手がけたことのない「図録」を作成し販売することになつた。それがいかに大変なことか実感させられた。遺族の方々を呼んでオープニングセレモニーをやろう。遺族の方と語る「アザリアの集い」をやろうと。企画はどんどん広がっていく。気がついたら早々に、ポスターとチラシのイメージ作りに着手していた。アザリア行きの銀河列車は疲れを知らぬまま突き進んだように思う。実に不思議な気がする。

今回の展示を振り返って思うことは、〇先生の人徳なのだろう

A black and white photograph showing three individuals in an indoor setting. On the left, a woman in a light-colored blouse holds a small, rectangular framed piece of calligraphy. In the center, an elderly woman with glasses and a dark jacket is smiling. On the right, a man in a dark suit and glasses holds a larger, rectangular framed piece of calligraphy. The background features several framed pictures on the wall.

感謝状と記念品の贈呈

面から立体へという感じ。展示場のエントランスの「デコレーション」までもがアザリアの巨大な「サイコロ（立体）」となつて表象しているようだ。水辺に落ちた水滴の波紋のように、人も企画もバランス良くすばらしい展示になつたと思う。入場者数が2千名を超えたといつて喜んだ特別展示企画小委員会委員長の顔が忘れられない。とりあえず、関係者はホッとしたと思ふ。終えたばかりの展示「アザリア」だが、いつかまた新たな波紋となつて日本中を駆けめぐるような気がしてならない。

便でお申し込みください。
賢治センターにメールまたは郵
便でお申し込みください。
「宮澤賢治と学友たち」の残
部があります。ご希望の方は岩
手大学の図書館カウンターでお
求めください。遠方の方は宮澤
賢治センターの仲間たちも優秀な
人たちばかりで驚いた。彼らの
後輩として頑張りたいと思つた。
図録「アザリアの咲くとき」
のアザリアの仲間たちも優秀な
人たちはかりで驚いた。彼らの
後輩として頑張りたいと思つた。



送料実費（1部180円）

編集後記

○発行
〒○一〇一八五五一
盛岡市上田四丁目三番五号
電話 ○一九(六一一)六六七一
FAX ○一九(六一一)六四九一
E-mail:kennji@swate-u.ac.jp
宮澤賢治センター(岩手大学内)
発行責任者 岡田幸助
○印刷 杜陵高速印刷株式会社